

(6) 精神保健福祉対策

平成7年に改正された精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づき、精神障害者やその疑いのある者に対する適正医療、自立と社会参加促進のための援助として、当センターでは精神障害者の診察及び保護の申請に対する対応、精神保健福祉相談事業、社会復帰相談指導事業、社会適応訓練事業（通院リハビリテーション）、精神保健思想普及啓発事業、関係機関との会議・研修、関係団体および社会復帰施設への支援などを行っています。

ア 管内精神障害者の現状

(ア) 精神障害者保護申請通報状況

表1 精神障害者保護申請通報状況

区分 年度	申請通報件数							処理状況		
	一般 申請	警察官 通報	検察官 通報	保護 観察所	矯正 施設長	病院 管理者	計	措置 入院	不要 措置等	計
14年度	13	39	1		1	1	55	5	50	55
15年度	2	1					3	2	1	3
16年度	1	7					8		8	8
17年度	1	7	1				9	3	6	9
18年度	3	9	1		1		14	4	10	14

(イ) 精神障害患者数

表2 患者数（市町別）

	入院患者数	人口1万対	通院患者数	人口1万対	合計	人口1万対
鯖江市	181	27.1	1,141	170.7	1,322	197.8
越前市	219	25.0	1,313	149.6	1,532	174.6
池田町	16	47.0	115	337.7	131	384.7
南越前町	37	30.1	158	128.7	195	158.8
越前町	81	33.8	325	135.4	406	169.2
管内	534	25.9	3,052	148.0	3,586	173.9
福井県	2,155	26.2	15,389	187.3	16,311	213.5

入院患者数はH18年3月末時点の入院患者数

(福井県健康増進課資料より)

通院患者数はH18年3月1か月間の実人員

表3 精神障害入院患者数（市町別）

H18.3.31 現在

区分 市町	合計			措置入院			医療保護入院			任意入院		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
鯖江市	97	84	181	0	0	0	22	25	47	75	59	134
越前市	110	109	219	1	0	1	29	20	49	80	89	169
池田町	7	9	16	0	0	0	5	7	12	2	2	4
南越前町	17	20	37	1	0	1	5	1	6	11	19	30
越前町	50	31	81	0	0	0	18	9	27	32	22	54
管内	281	253	534	2	0	2	79	62	141	200	191	391
福井県	1,097	1,058	2,155	12	1	13	367	327	694	718	730	1,448

(福井県健康増進課資料より)

イ 精神保健福祉活動状況

(ア) 精神保健福祉相談・訪問指導状況

当事者やその家族、関係者からの電話や面接相談、必要に応じて訪問指導を実施しています。さらに定例相談日を設けて精神科嘱託医による相談を行っています。

表4 面接相談状況

種別 年度	実人員	延人員							計
		社会復帰	老人精神 保健	アルコール	思春期	心の健康 づくり	薬物	その他	
17年度	80	109	6	5	6	9	0	17	152
18年度	51	41	8	14	3	20	0	17	103

表5 訪問指導状況

種別 年度	実人員	延人員						計
		社会復帰	老人精神 保健	アルコール	薬物	その他		
17年度	119	156	23	16	0	81	276	
18年度	100	163	12	9	0	30	214	

表6 電話相談状況

年度	延人員
17年度	837
18年度	644

表7 コーディネート件数

(個別ケースに関する関係機関等との連絡・調整)

年度	延人員
17年度	761
18年度	604

表8 医師による相談状況

種別 年度	実人員	相談別内訳(延人員)							計
		社会復帰	老人精神	アルコール	思春期	心の健康	薬物	その他	
17年度	36	8	13	0	12	9	0	0	42
18年度	38	7	5	1	18	10	0	4	45

(イ) 社会適応訓練事業

社会復帰を図ることを目的として精神障害者が一定期間協力事業所に通い、集中力、仕事に対する持続力、環境適応能力等の社会適応訓練を行っています。

表9 社会適応訓練事業

(年度内利用実人員)

協力事業所名	シーアンドティ サービス	きくかわ	アイテック	福井光器
17年度	0	1	3	2
18年度	0	0	2	1

(ウ) 精神保健福祉普及啓発事業

地域住民の方々に対し、心の健康についての正しい知識の普及啓発と精神疾患や障害者について正しい理解の促進を図るとともに、精神保健福祉に関するボランティアの育成を行うことを目的として平成4年度からこの健康ボランティア講座を開催しています。

表10 こころの健康ボランティア講座

開催月日	テ-マ	講師名	参加人数	開催場所
第1回 H18.11.10	・開講式・オリエンテーション ・講義「健康福祉センターにおける精神保健福祉事業の紹介・社会復帰施設の紹介」 ・講義「心の健康と精神科の病気について」	丹南健康福祉センター職員 津田クリニック 津田恭子医師	13名	丹南健康福祉センター
第2回 H18.11.17	・講義「ボランティアとは・ボランティア活動とは」 ・当事者の声 ・活動発表「音楽を通しての活動」	県社会福祉協議会 多田喜代子氏 社会復帰施設利用者 やすらぎバンド	10名	丹南健康福祉センター
第3回 H18.11.22 ・11.24	・ふれあい交流 「就労移行支援事業所」 「地域活動支援センター」への参加 (いづれか1ヶ所以上を選択して参加)		10名	千草の家 サニークホーム やすらぎ アップ
第4回 H18.12.1	・体験談発表 「日頃のボランティア活動を通して思うこと」 ・グループワーク、まとめ 「今回のセミナーで学んだこと」 「私ができるこころの健康ボランティア活動とは」 ・まとめ 「当事者にとってのこころの健康ボランティアの存在」 ・閉講式	精神保健福祉ボランティア みちくさの会代表 ほのぼの会代表 地域活動支援センター やすらぎ 藤間玲子氏	11名	丹南健康福祉センター

(エ) 関係機関との会議・研修会

管内の関係機関との連携の強化、資質の向上を目的とした会議・研修会を開催しています。

表11 関係機関との会議・研修会

会議名・開催月	内 容	講師名	参加人数	開催場所
警察署との 連携会議 H18.6.8	・意見交換会～事例を通して今後の連携体制を考える～ ・心神喪失者医療観察法について		警察署職員 町職員 21名	丹南健康福祉センター
思春期関連 研修会 H18.8.9	・事例検討会 「思春期の気になる事例 (不登校等)」	まどころ心療 クリニック 間所重樹医師	学校関係者 20名	丹南健康福祉センター
アルコール関連 問題研修会 H18.9.12	・講義「アルコールからの回復と家族の役割」 ・グループワーク	福井県立大学 看護福祉学部 西川京子氏	市町職員 病院関係者 家族 など 15名	丹南健康福祉センター
社会復帰支援 (相談対応) 研修会 H18.6.30	・事例検討 「地域での処遇困難なケース(人格障害)への対応について」	みどりヶ丘病院 綱澤卓也医師	市町職員 警察・消防等 関係職員 13名	丹南健康福祉センター
H19.1.12	・事例検討 「対人関係が不安定な事例への支援について」 「一人暮らしの事例への支援」	みどりヶ丘病院 綱澤卓也医師	市町職員 社会復帰施設 職員 12名	丹南健康福祉センター
社会復帰支援 (自立支援) 研修会 H19.2.22	・講義 「地域における精神障害者の多様なグループホームの実際を学ぶ」 ・グループホーム見学	精神障害者福祉ホーム こもれび 吉田弘美氏 県障害福祉課職員	市町職員 社会復帰施設 職員 18名	精神障害者 福祉ホーム こもれび

ウ 関係団体および社会復帰施設への支援

(ア) 家族会育成

精神障害への理解を深め、家族同士が協力し支え合って悩みを解消するとともに、地域に向けて障害者の住みやすい社会づくりや社会復帰に向けた前向きな取り組みができるよう支援しています。

表 1 2 家族会状況

H19.3.31 現在

名称	内容		活 動 内 容
	会員数	例会	
つつじ会	45	6	・例会 ・役員会 ・学習会 ・交流会 ・広報 等
芦山会	12	11	

(イ) 精神保健ボランティア育成事業

こころの健康ボランティア講座を受講した者の中から精神保健ボランティアが誕生しました。現在 2 つのボランティアの会(みちくさの会、ほのぼの会)が設立され、積極的に社会復帰施設への協力、研修会参加等を行っています。

表 1 3 精神保健ボランティアの会の活動状況

H19.3.31 現在

名称	内容		活 動 内 容
	会員数		
みちくさの会	20		・例会 ・役員会 ・会議、研修会 ・交流会 ・家族会協力 ・社会復帰施設協力 ・広報等
ほのぼの会	24		

平成 15 年度より精神保健ボランティアの会会員のレベルアップを目的として精神保健ボランティア継続研修を実施しています。

表 1 4 精神保健ボランティア継続研修

開催月日	テ - マ	講師名	参加人数	開催場所
H18.8.9	・グループワーク 「コミュニケーションスキルの向上のために」	藤田正一先生	12 名	丹南健康福祉センター
H18.12.5	・グループワーク 「私とボランティア活動～当事者にとってのボランティアの存在～」	仁愛大学 鎌田道彦先生	13 名	丹南健康福祉センター